

MOVE
your
HEART!

FC GIFU

荒木 大吾 選手・文 仁柱 選手の紹介

あらき だいご
荒木 大吾 選手(30歳) 背番号 **8 MF**
ホームタウン応援大使 ニックネーム
美濃加茂市 ダイゴ

千葉県船橋市出身。今季FC岐阜に加入し、2月に第一子が誕生。奥様と3人での岐阜生活がスタートした。

サッカー好きな父親の影響でサッカーハジメ、小学校4年生から船橋のクラブチームに加入した。6年生から柏レイソルアカデミーのU-15に移った。そこでは上手い選手が大勢いて試合に出れないどころか、練習について行けず悔し涙を流すこともあったが、初志貫徹で諦めなかった。そしてU-18に進み、初めての公式戦で予想外の先発メンバーに選ばれた。その試合で得点をあげたことで大きな自信を得た。大学は関東1部リーグの青山学院大学サッカー部に進学した。勉学とサッカーの両立が難しく何度か大学を辞めようかとも思った。当時の監督が元浦和レッズの選手であったこともあり、ジュビロ磐田への練習参加をしたこと、勉学とサッカーの両立のモチベーションとなった。

大学卒業後、念願叶い2016年にJ1ジュビロ磐田に加入し4年在籍した。名波元監督の練習は厳しく、ついていくのに必死でスタメンにはなれずチームもJ2へ降格した。自身も重症の怪我を負って長い間の治療とリハビリ生活となつた。

2020年に京都サンガへ移籍し、喜元監督からポジション変更を告げられた。試合に出れず練習を重ねる毎日となつたが、自己中心的に見てきたサッカーを客観的に冷静に見れるように自己成長出来たことに感謝している。4年間京都サンガに在籍し、今年から心機一転FC岐阜でスタートしました。岐阜に来て先ず感激しているのは、メディカルケアとサポートをしてくれる野崎信行コンディショニング・アドバイザーと鈴木仁トレーナーの素晴らしいです。今まででは怪我の連続で苦しかったが、トレーナー陣のお蔭で万全の体になって、現在、開幕から全試合に出場し、5得点の活躍でチームを牽引する選手となつてきている。今までの監督交代や昇格、降格等、経験してきたことや後半戦からは特に厳しさと集中力が必要であることを若い選手に日々伝えていくことも大切であると思っている。引き続き皆様の応援をよろしくお願いします。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

文 仁柱 選手(24歳) 背番号 **22 MF**
ホームタウン応援大使 ニックネーム
七宗町、白川村 ムン

埼玉県出身で両親と5人の兄弟姉妹の末っ子で育ち、韓国国籍を持つ。中学は埼玉朝鮮初中級学校、高校は東京朝鮮中高級学校で学び、東京都小平市の朝鮮大학교に進学した。4歳上の兄がサッカーをやっており、父が幼稚園生だった自分を連れて行ってサッカーボールに触らせてくれたのがきっかけでサッカーに興味を持った。高校1年生の時から全国サッカーワールドカップ予選で3年連続準々決勝まで進んだことがとても思い出に残っている。3年生の時は3対4で負けてしまったが、全校生徒の熱い応援の中で、大舞台での大接戦は大きな自信になった。

2022年J3ガイナーレ鳥取に加入しJリーグデビューを果たした。2年間活躍の後、今年からFC岐阜に加入しました。対戦していた時から、岐阜の観客の多さ、サポーターの熱量を感じていましたが、来てみて人情の暖かさと住みやすさも感じて嬉しく有難く思っている。スタメン出場の機会が多く、岐阜スタイルが自分に合っていると感じている。

今年FIFAワールドカップ26アジア2次予選を戦う朝鮮民主主義人民共和国代表に選ばれた。2次予選で日本には敗れてしまったが最高の経験となった。まだ3次予選(最終予選)グループに残っているので、再び代表選手に選ばれることを期待している。サッカーを通じて在日朝鮮人の人たちの励みになれるように一所懸命頑張りたいと思います。

普段から岐阜の選手たちとも楽しく生活を楽しんでおり、ホームタウン応援大使を務めている七宗町と白川村にはシーズン中に訪問したいと思っている。岐阜を代表する文選手に頑張れコールをお願いします。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU